

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：0歳児クラス)

モニカ矢口渡園

M  nica

テーマ

水の魅力

設定理由

手洗いの際に水に触れることを喜んだり、何度も水道に行き水を出そうとしたりする姿が見られた。また、梅雨時期に保育室から見えるウッドデッキに雨が降る様子を食い入るように見ていた。生活に欠かせない水に触れることで、親しみ、水特有の性質や面白さを感じてほしいと考えたため。

0歳児保育室は、ウッドデッキと水道が設置されている砂場に直接いける構造になっている。そのため室内でも戸外でも水を使った活動が容易であるため、子ども達も活動を途切れなく行うことが強みである。

対象クラス

0歳児クラス・6名

活動のねらい

水に触れ、水に親しむ
水特有の性質を体感し、
その不思議さや面白さに興味を持つ

問い

「どんな感じがする」
「何か動いているよ」 「何か変わったね」
「さっきと違うね」

活動期間

令和7年7月～10月

活動回数

計3回

活動①

水に石や葉を入れ、「沈む」「浮かぶ」を体感する 水に触れ、慣れ親しむ中で、その特性に興味を持つ

環境構成

- 水槽2台を並べて床に置き、子どもたちがそれを囲む形で座る（座る、立つ、しゃがむなど、子どもが自由に視点を変えられるように床に設置する）
- 保育者はそばに付き、子どもたちが思いのままに、石や葉を水槽に入れられるようにサポートする
- 活動中、石を投げたり、足に落としたり、口に入れたりしないように見守る

活動②

濡れた手でさまざまな素材に触れそこに水跡が付くことに気付く 時間の経過と共に水跡が変化し、やがて消えていくことに気付く

環境構成

- 保育室の水道に近い場所で行う
 - 水の入った容器と素材に興味が向くように配置する
 - 素材は水跡が付くもの、水跡が目視でわかりやすいものを用意する
 - グループは、組み合わせを変えて繰り返し行う
 - 回を重ねるごとに、子どもたちにどのような変化が見られるか観察する
- ※2回目以降は、1回目で水跡がわかりやすかった「石板」と「紙」乾きが早く水跡の変化がわかりやすい「土粘土の板」を使って行う

活動③

流れる水を見て、水の動きに興味を持つ 水の形状の変化に不思議さや面白さを感じ、触れてみる

環境構成

- 砂場のデッキを使用
- 布団の圧縮袋をタープのように斜めに張り、水の流れをタープの内側（下）からだけでなく外側からも見て触れるようにする
- 0歳児保育室から出入りができる砂場のデッキにセッティングする
- 子どもの目の高さを考慮し、手の届く高さにタープを張る
- 水ですべて転倒しないようにそばに付き見守る

もも組 プロジェクト保育① 水に沈む 水に浮かぶ

【実施日】 令和7年7月7日

【時間】 9:30 ~ 10:00

【場所】 0歳児保育室

【テーマ】 水 [プロジェクト保育① 水に沈む・水に浮かぶを感じる]

【ねらい】 全体を通してのねらい ●水に触れ、水に親しむ

●水特有の性質を体感し、その不思議さや面白さに興味を持つ

今回の活動のねらい ○水に石や葉を入れ、「沈む」「浮かぶ」を体感する

○水に触れ、慣れ親しむ中で、その特性に興味を持つ

【準備物】 水槽、石、葉、タオル、雑巾、シート

【環境】 子どもたちが水槽を囲んで座れるように、保育室の中央に配置する



- ・水槽2台を並べて床に置き、子どもたちがそれを囲む形で座る
(座る、立つ、しゃがむなど、子どもが自由に視点を変えられるように床に設置する)
- ・保育者はそばにつき、子どもたちが思いのままに、石や葉を水槽に入れるようにサポートする
- ・活動中、石を投げたり、足に落としたり、口に入れたりしないように見守る

●石を入れる

保育者が水の中へ石をひとつ落としてみせると、子どもたちもそれに続き、次々に石を入れ始めた。握りこぶしほどの大きな石、親指ほどの小さな石、重さや色形の違うさまざまな石を、感触を確かめながら水の中へ入れていく。

ぽちゃん。ぽちゃん。どの石もゆっくりと底に沈んでいく。子どもたちは繰り返し石を落とし、その様子をじっと見つめていた。



●葉を入れる

つづいて子どもたちに葉を一枚ずつ手渡した。すると、石と同じように水に落とす姿が見られた。しかし、葉は沈まない。何度やっても水面に浮かんでいる。

大きな葉も小さな葉も、ぷかぷか。ぷかぷか。子どもたちは、次から次へと葉を入れてみていた。

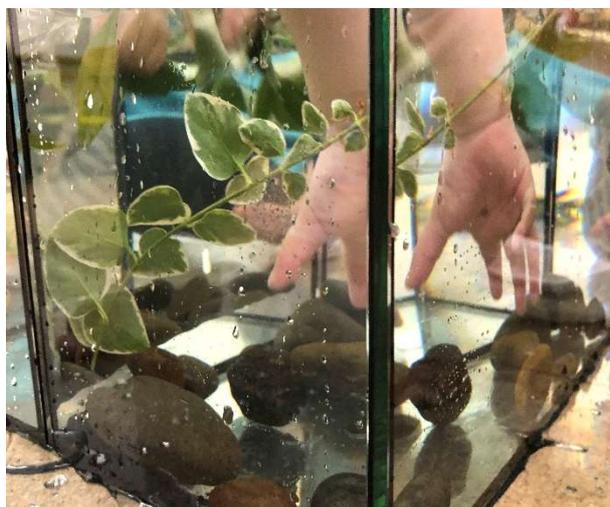


●沈んだ石に手を伸ばす

全ての石を入れ終わると、何かを探すかのように、水中をのぞきこむ。
底の方に石を見つけると、身を乗り出し、勢いよく水の中に手を入れた。
水面が大きく波打ち、激しく水が飛び散った。沈んだ石にはなかなか手が届かない。

●浮かぶ葉に手を伸ばす

子どもたちが手を入れる度、水の動きに合わせて、水面の葉も大きく揺れた。
葉をすくい上げる手。水面に浮かぶ葉にはすぐに手が届くが
石はずっと、底の方に沈んだままだ。



●水の中

石をつかもうとして水の中をさまよう手。
ぐっばぐっばと握ったり閉じたり、ぐるぐると水をかき混ぜたり。
好奇心が止まらない。洋服はびしょ濡れになった。



【ふりかえり】

雨の日、ウッドデッキにできる水たまりや波紋をじっとみつめる姿、水道から流れ出る水に触れようと流し台に集まる姿、こうした水に興味を持つ子どもたちの姿からスタートした「水」の探究活動。水に触れ、親しむ中で、子どもたちはいったい何を思い感じるのだろうか？



石や葉といった身近な自然素材の力を借りて行った今回の活動では、子どもたちは、言葉での表現やその意味はわからなくても、「沈む」「浮かぶ」を体感し、その違いを感じ取っているようだった。

最後は水遊びになり、皆びしょ濡れになっていたが、水に触れ親しむ中で、子ども自身が水の不思議さや面白さを感じとって興味を持てるように、引き続き探究していきたい。

もも組 プロジェクト保育② - 1 水跡 1回目

【実施日】 令和7年7月28日

【時間】 9:45 ~ 10:10

【場所】 0歳児保育室

【テーマ】 水 [プロジェクト保育② 水跡 1回目]

【ねらい】 全体を通してのねらい●水に触れ、水に親しむ

●水特有の性質を体感し、その不思議さや面白さに興味を持つ

今回の活動のねらい ○濡れた手でさまざまな素材に触れそこに水跡が付くことに気付く

○時間の経過と共に水跡が変化し、やがて消えていくことに気付く

【準備物】 水の入ったガラスの容器、石板、木片、グレーの和紙、乾燥した土粘土片、タオル、雑巾

【環境】 保育室の水道に近い場所で行う

水の入った容器と素材に興味に向くように配置する

少人数のグループで行う



- ・子どもたちは床に座って活動する
- ・水の入った容器を中央に置き、子どもたちが興味のままに手を伸ばし、素材に触れられるように配置する
- ・素材は水跡が付くもの、水跡が目視でわかりやすいものを用意する
- ・グループは、組み合わせを変えて繰り返し行う
- ・回を重ねるごとに、子どもたちにどのような変化が見られるか観察する

●水に浸す

はじめに掴みやすい木片を手に取り、水に浸しはじめた。水が染みて徐々に色が変わっていく。その変化に気付けるよう、保育者が乾いた状態の物と並べて示すと、指で触って確かめる姿が見られた。



●水跡に気付く

水の入った容器を見つけるとすぐに手を浸した。その後偶然にも濡れた指先が横にあった石板に触れ、点々と水跡が付いた。はっとした表情を見せたAくん。じわじわ水が滲んで広がっていく様子を、食い入るように見つめていた。



●手で跡を付ける

水で濡れた手が触れると、そこに手の跡が付くことに気づき、繰り返し試す姿が見られた。自分の手の跡と認識している様子で、手を濡らしては繰り返し素材に触れ、水跡を付けた。



●足で跡を付ける

活動中、飛び散った水で床が濡れ、足も濡れた。敷いてある和紙の上に乗ると足跡が付いた。2歩3歩と足を前に出すと足跡が増えていく。子どもたちは意識して和紙の上を歩きはじめた。



●水跡の変化

手を濡らし、跡を付けることに夢中で、今回子どもたちは水跡の変化（徐々に乾いていく様子）に気付くことはなかった。石板や和紙は乾くまでに一定の時間がかかるが、土粘土の板は乾きが早い。子どもたちが水跡の変化を見るには最も適していると感じた。



【ふりかえり】

はじめは、容器に入った水に手を浸す（水に触れる）ことを何より楽しんでいた子どもたちだが、自然に水が飛び散ったり、濡れた手が触れ、水跡がつくことに気付くと、そちらに意識が向くようになっていった。次回は、水跡の変化にも気付けるように、時間を長めに設定し、行ってみようと思う。



もも組 プロジェクト保育② - 2 水跡 2回目

【実施日】 令和7年8月29日

【時間】 9:30 ~ 9:50

【場所】 0歳児保育室

【テーマ】 水 [プロジェクト保育② 水跡 2回目]

【ねらい】 ●水に触れ、水に親しむ

●水特有の性質を体感し、その不思議さや面白さに興味を持つ

○濡れた手でさまざまな素材に触れ、そこに水跡が付くことに気付く

○時間の経過と共に水跡が変化し、やがて消えていくことに気付く

【準備物】 水の入ったガラスの容器、石板、茶色の梱包紙材、乾燥した土粘土板、タオル、雑巾

【環境】 保育室の水道に近い場所で行う

水の入った容器と素材に興味に向くように配置する

少人数のグループで行う

●水跡を見つめるまなざし



●変化する水跡

「あれ？消えていくね」「見て！消えてきたね」声をかけ、子どもの視線を誘導した。土粘土の板は、置いていた手を離したとたん表面がさっと乾き、水分が蒸発していく。変化する水跡に、子どもたちも気付いた様子だった。



【ふりかえり】

石板や紙は、土粘土の板よりも乾くのに時間がかかり、水跡の変化はゆるやかだ。0歳児クラス子どもたちに、水跡の変化に気づいてもらうには、土粘土の板が向いていると感じた。儚く消えゆく水跡、その面白さや不思議さに興味をもてるよう、更に良い素材を探してみようと思う。



もも組 プロジェクト保育③ 流れる水

【実施日】 令和7年9月12日・25日

【時間】 9:30 ~ 10:00

【場所】 砂場のデッキ

【テーマ】 水 [プロジェクト保育③流れる水を見る・触れる]

【ねらい】 全体を通してのねらい●水に触れ、水に親しむ

●水特有の性質を体感し、その不思議さや面白さに興味を持つ

今回の活動のねらい ○流れる水を見て、水の動きに興味を持つ

○水の形状の変化に不思議さや面白さを感じ、触れてみる

【準備物】 タープ (布団の圧縮袋の4隅に紐をつけたもの)、じょうろ、タオル (足ふき用)

【環境】 砂場のデッキを使用

布団の圧縮袋をタープのように斜めに張り、
水の流れをタープの内側(下)からだけでなく
外側からも見て触れるようにする



・0歳児保育室から出入りができる砂場のデッキにセッティングする

・子どもの目の高さを考慮し、手の届く高さにタープを張る

・水ですべって転倒しないようにそばに付き見守る

●染みてくる水に気付く

タープにじょうろで水をかける。

この時点では、まだ子どもたちはタープをつたってくる水に気が付いていない。

タープから流れ落ちた水が、デッキに染みてくる。

じわじわと向こうから迫ってくるその様子に

目が釘付けになっていた。



●滴に気付く

足元まで迫ってきた水の染み跡。

これは何？いったいどこから来るの？といった様子で、視線を上げる子どもたち。

タープの端からポタポタと落ちる滴に気が付いた。

「わあっ！」と声上がる。

もっとそばで見ようとして、タープの外へ出て行く子もいた。



●水の動きを追う

滴に気が付くと視線はさらに上へと移動し、水が流れ落ちてくる様子に目が止まった。驚きともつかないような歓声があがる。デッキに座っていた子どもたちは立ち上がり、タープに手を伸ばした。光で揺らめく水、流れの強弱、指を差して水の動きを追った。



●直接接触してみる

タープの内側から水の流れを見るだけでなく、タープをつたってくる水に直接接触した。

●飛び散る水に興味を持つ

時間経過とともに、デッキに水がたまりはじめ水滴が落ちる度、勢いよく水が飛び散った。それを見つめるまなざし。形を変える水、その生き物のような動きに興味津々だ。



●水たまりに興味を持つ

気が付けばデッキに大きな水たまりができていた。
子どもたちが水面をたたきはじめた。ピチャピチャと音がする。
波紋が広がる。波紋がぶつかりあって、また新しい波紋が生まれる。
そのわずかな波動が手のひらに伝わる。
夢中になって水面をたたいた。



【ふりかえり】

子どもたちの反応に変化があるか様子を見るため、日をおいて2回行った今回の活動。

環境の条件は同じでも、タープをつたう水の流れは一定でなく、子どもたちの興味をそそった。
2回目ではより積極的に手を伸ばし、1回目に気付けなかったことに気付くなど
毎回新鮮な驚きをもって、水に触れてみよう確かめてみようとする子どもたちの姿が見られた。

雨の日、ウッドデッキにできる水たまりを見ていた子どもたちの姿からスタートした
[水]をテーマにしたプロジェクト保育。
全身を使って、五感で[水]を感じる体験ができたのではないだろうか。

降り注ぎ、流れ落ち、光を受けてゆらめく水。
したたり落ち、跳ね上がり飛び散る、形を変えるふしぎな水。
水への興味は深まる一方だ。

使用物

水槽 | 石 | 葉 | タオル | 雑巾 | シート | 水の入ったガラスの容器 | 石板 | 木片 | グレーの和紙
乾燥した土粘土片 | タープ(布団の圧縮袋の4隅に紐をつけたもの) | じょうろ
タオル (足ふき用)

テーマ：水の魅力

全体の振り返り

環境の条件は同じでも、水の流れや動きは一定でなく、子どもたちの興味をそそった。また、メンバーや素材を変えることで、2回目ではより積極的に手を伸ばし、1回目に気付けなかったことに気付くなど毎回新鮮な驚きをもって、水に触れてみよう確かめてみようとする子どもたちの姿が見られた。

雨の日、ウッドデッキにできる水たまりを見ていた子どもたちの姿からスタートした探究活動であったが、全身を使って、五感で「水」を感じる体験ができたのではないだろうか。降り注ぎ、流れ落ち、光を受けてゆらめく水。しったり落ち、跳ね上がり飛び散る、形を変えるふしぎな水。水への興味は深まる一方だ。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ矢口渡園

〒144-0054
東京都大田区新蒲田2-10-5
TEL:03-6424-5833
FAX:03-6424-5875